令和４年度　奈良県立大和中央高等学校　定時制　学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和４年度（中期計画１年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	・生徒の学習ニーズやライフスタイル等に応じた学習機会の提供　・生徒の「個別最適な学び」や「学び直し」等に関する支援
年度重点目標	(1) 自立した社会人となるための基礎形成を図る。　(2) 生徒理解による基礎学力の定着に努める。 (3) 高校通級の研究校として研究取組の充実に努める。　(4) 好ましい人間関係構築能力や社会性を育む。

1　スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	本校定時制課程では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 1 本校の教育方針や教育内容を理解し、目標に向け自らの意思で学ぼうとする意欲をもつ生徒。 2 自分の生活リズムや職業等に合わせて学び、高等学校卒業を目指す生徒。 3 基本的生活習慣、基礎的・基本的な学力、規範意識等社会で必要な力を身に付けたいと願う生徒。 4 新たな学校生活の中で自分を見つめ、新しい自分の発見や成長を目指す生徒。 5 多様な価値観や一人ひとりの違いを認めつつ、仲間と共に高め合いたいと願う生徒。
	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	本校定時制課程では、「自律」「敬愛」「進取」 の校訓のもと、以下のような教育活動を行います。 1 単位制の特徴を生かし、生徒が自らに適した教材・科目を積極的に選択できる教育課程を編成する。 2 基礎的・基本的な学力の充実や社会的・職業的自立の基盤となる資質・能力の習得を目指した学校設定科目を設定する。 3 共通科目に加え、商業科・家庭科等において、生徒の資格・検定等の取得につながる専門科目を設定する。 4 高等学校卒業程度認定試験や各種検定等で取得した単位を卒業単位として認定するなど、生徒の積極的な学びを評価し、3年修業による卒業の選択も可能とする。 5 定期的なスクリーニング等によるきめ細かい生徒理解に努め、SC（スクールカウンセラー）・SSW（スクールソーシャルワーカー）や関係機関等と連携した支援を推進する。 6 多様な生徒の学びを保証するため、UDL（学びのユニバーサルデザイン）を意識した授業づくりに取り組む。 7 生徒の学習上・生活上の困難等の改善・克服を図るため、「通級による指導」を実施する。 8 HRや総合的な探究の時間、部活動を通して、生徒の社会性や人権意識の醸成、自己管理能力や望ましい勤労観等の獲得、進路実現等を支援する。 9 BYODの活用等、ICTを活用した教育活動の充実を図る。
	育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	本校定時制課程では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 1 自主自立の精神をもって自分がなすべきことを適切に判断し、行動できる。 2 情操豊かな心をもって、自他の人格を尊重できる。 3 自ら進んで目標を定め、その達成に向けて真剣に努力し、未来を切り開いていけるたくましさをもつ。

2　奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和４年度末の目標値等（C）	令和４年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（案）
1．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	自己肯定感の醸成	ボランティア活動関連学校行事を毎期実施	ボランティア活動関連学校行事を毎期実施	前期参加予定の「筒井地蔵尊祭」は中止となったが、「やまとの夏まつり」「大和郡山お城祭り」に生徒会役員等がボランティア参加した。	ボランティア活動への参加による地域貢献より、生徒の自己肯定感の向上が図られた。	・学校に登校することは、いろいろな楽しみがあるから登校していましたが、このようにコロナ禍でも行事等を行っていただけることが生徒の成長につながる。このような行事をこれからも行ってほしい。	来年度も「筒井地蔵尊祭」への参加を計画する。
	他者への寛容なこころの育成	保育園・老人ホーム等への訪問を毎年実施	保育園訪問実施	筒井幼稚園・老人ホームへの訪問を予定していたが、実施直前に中止となった。後日、生徒が製作したプレゼントを教員が持参した。	訪問はできなかったが、プレゼント制作等の経験から、他者に寄り添う気持ちが醸成された。		来年度も幼稚園・老人ホームへの訪問を計画する。
	望ましい食習慣の確立	「食生活レター」を毎月発行	「食生活レター」を毎月発行	長期休業中を除き、「食生活レター」を毎月発行した。	「食生活レター」の毎月発行を継続できた。		定位的なアンケート実施等により、生徒の食生活の変化を知る方策を検討する。
2．学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	わかる授業の創出	UDLに関する職員研修を毎期実施	UDLに関する職員研修を毎期実施	前期・後期とも生徒理解研修等において、学習に困難を抱える生徒とその支援について共通理解した。また、UDフォントの使用等、日常的にUDLを意識した教育活動を展開した。	前後期とも生徒理解研修を実施し、学習に困難を抱える生徒への支援、UDLを意識した教育活動について、全教員による共通理解を図った。	・わかる授業を行うためには、先ず環境である。教室では、ゴミが落ちておらず机もまっすぐ並んでいて環境が整備されている。続けていってほしい。 ・保護者に学校の様子を参観いただく、あるいは保護者の意見をいただく工夫について、検討をお願いしたい。	生徒の個別支援やUDLを意識した教育活動等は本校教育の根幹であるので、全教職員に対して丁寧な研修を実施する。
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業アンケート「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答者数の増加	授業アンケート「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答者数70%以上	すべての授業（前期・後期・通年）において授業アンケートを実施し、「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答者数は87.5%であった。	授業アンケートにおける肯定的な回答者数は、目標値を超えており、BYOD端末を利用した授業等成果が表れている。		BYOD端末を利用した授業展開に付いての研修を増やし、わかりやすい授業展開を目指す。
	ICT教育の推進	令和4年度入学生の全授業でBYOD端末活用	令和4年度入学生の全授業でBYOD端末活用	生徒の端末購入等が完了した後期については、令和４年度入学生が履修している全授業でBYOD端末を活用した。	後期からは、令和4年度入学生が履修している全授業においてBYOD端末を利用し、大きなトラブルもなく授業展開できた。		令和5年度は、3年次以上の生徒に対して端末の通年貸し出しを実施し、端末を利用した授業をより広める。
3．働く意欲と働く力をはぐくむ	産業界との連携の推進	企業等を招いての「進路ガイダンス」を毎年実施	企業等を招いての「進路ガイダンス」を毎年実施	外部講師等を招き、職業体験・模擬授業・マナー講座等の内容で進路ガイダンスを６月に実施した。	６月に進路ガイダンスを実施し、生徒の就職等に向けた意識の高まりに繋がった。	・個々の生徒の希望や状況に応じ、進路指導を行っていただいている。	生徒ができるだけ多くの職業体験・模擬授業を経験できるように企画する。
	職業体験の充実	全ての学校求人による就職希望生徒75%以上に職場体験または職場見学を実施	全ての学校求人による就職希望生徒70%以上に職場体験または職場見学を実施	学校求人による就職を希望する生徒全員（100%）について、職場体験・職場見学を実施した。	職場体験・見学を実施することで、生徒の就職に向けた不安感の払拭に繋げられている。		企業との連携を密にとり、生徒の安心感に繋がる職場体験を実施する。
	学び直し（リカレント教育）の機会提供	学び直しに関する積極的な広報活動	学び直しに関する積極的な広報活動	本校が取り組むリカレント教育について、教員による中学校訪問、中学生の体験入学、個別学校見学対応等の機会に広報した。	中学生の体験入学を実施し、個別の学校見学にも適宜対応している。		教員による中学校訪問にて、本校の目指す教育をより深く伝える資料作成を工夫する。
4．地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	学校運営協議会を毎年2回以上実施	学校運営協議会を2回以上実施	委員から意見や提言をいただきやすいよう内容を工夫し、７月と12月に学校運営協議会を実施した。	学校運営協議会を年間に２回実施できた。２回目は少人数で実施し、各委員から意見の出やすい雰囲気作りに努めた。	・地域への貢献は生徒の成長へ向けて大きな要素となる。今後も積極的に実施してほしい	委員の方々に、協議会だけでなく学校訪問いただく機会やご意見を伺う機会を検討する。
	地域における多様な体験活動機会の創出	「集中総合講座」を毎年実施	「集中総合講座」実施	７月に３年ぶりに実施し、全校生徒が34講座（校内30講座・校外3講座）に分かれて参加した。	３年ぶりの実施となり、生徒の普段の表情とは違う一面を見ることができた。教員の積極的な運営も見られた。		先生方の個性を活かしながら、多様な講座になるように工夫する。
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	「奈良TIME」の学習成果の蓄積	「奈良TIME」の学習成果のまとめ	これまでに引き続き、「奈良TIME」を担当した各教科において、教材及び学習成果の蓄積とまとめを継続した。	「奈良TIME」担当教科において、学習成果の蓄積がはかられた。		「奈良TIME」の実施方法について、生徒の体験機会が増す方法を検討する。
5．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	生徒理解に基づく生徒支援の充実	全生徒対象のスクリーニングアンケート及び全教員での生徒理解研修を毎期実施	全生徒対象のスクリーニングアンケート及び全教員での生徒理解研修を毎期実施	前期・後期とも、全生徒を対象にストレスチェックアンケートを実施した。また、４月に全教員による生徒理解研修を実施し、以降はあらゆる機会を捉えて生徒に関する要配慮事項等を随時共有した。	全教員の生徒理解研修を礎とし、職員室等での生徒に関する情報交換は積極的に行われ、個別の指導に繋げられている。	・基本的に校則がなく生徒それぞれに服装等が任されている。生徒一人一人を見据えたこの形にどこの学校もなっていく。その先駆けになってほしい ・不登校等、様々な状況の生徒を指導いただいているが、生徒たちは落ち着いて学習に取り組んでいると思う。	教員間の生徒に関する情報共有が、今後も頻繁に交わされるように推奨していく。
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	生徒が回答しやすくするために、設問を変えたいじめアンケートを期ごとに実施	生徒が回答しやすくするために、設問を変えたいじめアンケートを期ごとに実施	６月は電子媒体、１月は紙媒体で、それぞれいじめアンケートを実施した。生徒が回答しやすいよう、両方とも無記名アンケートとした。	年間２回のいじめアンケートを実施。生徒理解に繋げられている。		回答しやすいいじめアンケートの実施だけでなく、生徒の日常の変化に敏感な職員集団を目指す。
	通級指導の推進	通級指導対象全生徒について個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成	通級指導対象全生徒について個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成	通級指導を受けた全生徒について個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、卒業予定生徒については、必要に応じて進路先等に引き継いだ。	個別の支援計画に基づき通級による指導が行われ、対象生徒の大きな成長が見られた。		本校が大切にしている通級指導の考え方を、全教員の教育活動に活かせる取組を検討する。

3　評価結果の分析、今後の改善方策等

※本校教育の中心は、生徒個人の適正に応じた温かい支援の教育である。教職員一人ひとりの、生徒を支援する「調和力」を高めるとともに、教職員のチーム力と学校運営協議会の委員の皆様を中心とした地域の方々との連携・協力を強めていく。
※「本校に入学してよかった」と感じている生徒の割合 86.6%(生徒アンケート、令和５年２月実施)　「本校に入学させてよかった」と感じている保護者の割合 94.4%(保護者アンケート、令和５年２月実施)